

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490400068		
法人名	社会福祉法人 翠明会		
事業所名	グループホーム 敬天		
所在地	大分県日田市天瀬町女子畑234番地1		
自己評価作成日	令和2年11月1日	評価結果市町村受理日	令和3年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和2年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・お一人おひとりの思いを理解し、受け止め、家庭的で穏やかに過ごせるよう努めている。
 ・利用者がそれぞれの得意なことを活かし、発揮できる環境づくりを行っている。
 ・利用者同士が話し合い、声をかけ合って共に日々の生活を楽しめるように支援をしている。
 ・自然に恵まれたのどかな環境で、季節ごとの花植えや山菜採り、畑での野菜づくり、収穫など職員と一緒にやっている。
 ・昨年は地域民生委員の協力を得て、月に1回地域の独居の方と昼食を兼ねて交流会「よらん会敬天」を企画し、交流してきたが、今年度は感染症予防のため行っていない。引き続き交流の機会ができるよう努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・グループホームは市街地と離れ高齢化率の高い地域にあり、日頃から地区との交流を大切に考えている。その一つとして、在宅の高齢者を昼食に招くなどする「よらん会」での見守りを行っている。現在はコロナ禍で休止しているが、収束後はまた再開することになっており、地区のセーフティーネットの一翼を担っている。
 ・ケアプランの目標を具体的なわかりやすい課題にして、経過を詳しく記録し、実践できているかを検証している。
 ・職員同士が仲が良く、また、管理者とも相談しながら、利用者が穏やかに過ごせるようにケアにあっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、併設施設との全体朝礼、グループホームでの朝礼で理念を復唱、毎週の目標の復唱をし、理念に基づいた実践に取り組んでいる。	開設当初からの理念を遵守し、毎朝のミーティングで実践できているかを振り返っている。一人ひとりの思いや、地域とのつながりを大切にして支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年地域の行事や交流会などに参加していたが、今年度は感染症予防のためほとんどできていない。地域の見守りネットワークの一員として地域会議等に出席している。	独居や、昼間は一人で過ごす地区の高齢者のため「よらん会」をグループホームが主催し、2か月に1回、昼食を出すなどを行っていた。コロナ禍でここ数か月は中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の独居の方に声をかけ「よらん会敬天」を立ち上げ、体操やレクレーション、昼食をとりながら交流会を行った。今年度は開催できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や利用者の状況、今後の予定や研修、避難訓練等を報告し、行政や地域の代表、家族からの意見や要望等を話し合っている。	コロナ禍で、今年は1回のみ書面審議としたが、あとは実施した。委員には自治会長や民生委員、行政のほか、家族が4家族とメンバーが充実している。事業報告や行事の報告、家族の意見などを話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時に意見や提案をしてもらい、わからないことはその都度相談し、助言をもらっている。	運営推進会議での意見やヒヤリハット報告などについて助言をもらい、解決に結びつけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念や研修、身体拘束廃止委員会等で身体拘束を行わないケアの理解はできている。日中は施錠をせず、ベッド柵も起き上がりに必要な最小限で行っている。利用者や家族とも話し合っている。	月に1度の職員研修や、グループホーム連絡協議会で話し合いを行っている。今年はコロナの関係で書面伝達とした。利用者のうち、1名だけ家族の了承を得てセンサーマットを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や職員会議、ミーティング等で話し合い、虐待の理解に努め実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、全職員が研修を受けている。必要時は家族と話し合いながら活用していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、重要事項説明書に添って説明、理解をして頂いたうえで契約を行っている。変更がある場合は、その都度説明し承せていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議、面会時の意見や要望をその都度やミーティングで話し合い取り組んでいくようにしている。	面会の時、家族から意見を聞いているが、現下の感染予防対策などについて、安心してお願いできると感謝の言葉をもらっている。面会できないが動画での連絡などはまめにやっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の併設施設との職員会議、グループホームでのミーティング等で話し合い、改善に努めている。	仕事時間の短縮や、働く時間帯などについて負担が少なくなるよう、ミーティングで話し合い、改善に結びつけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の希望がすべて反映されているとは言えないが、希望の休暇や職場の労働環境など、生き生きと働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修や職員の得意な分野が活かされるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を年6回開催、参加し他施設の情報や、合同勉強会や交流研修を行っている。今年度は感染症予防のため研修会はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の希望や要望をよく聞き、受け止め、安心して暮らせる環境作りに努めている。日々の会話の中での情報や様子の変化を見逃さないようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の思いや家族の希望、要望を理解し、支援方法を面会時や電話で話し合い不安の解消、家族の信頼を得るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族に聞き取りをし、適切と思われるサービスを提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできることや特技、知識を活かし、共に作業を行うようにしている。一緒に食事をし会話も多く、家庭にいるような環境で生活ができています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との外出や外泊、電話連絡等支援している。家族の希望や要望も連絡時に聞き話し合っている。今年度は感染症予防のため外出や外泊ができていないが、動画や電話などで家族に報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の話しや要望を聴きながら、できることは続けていけるよう努めている。	コロナ禍の現在も、できるだけ普段通りの生活が送れるように工夫している。園内での秋祭りや、車に乗ったままのドライブに行ったり、畑や花作りに楽しみを見出している。生活の様子を家族に動画で送っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	声をかけ合い、誘い合い、一緒に作業をし、できないことはお互いに教え合ったりしている。仲の良い利用者や同じ趣味を持った利用者が楽しめるようにしている。介入必要時はさりげなく声をかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調悪化での入院退所後や特養入所など、できるだけ相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情の変化、体調の変化など様子を見ながら本人の思いを家族、職員全員で話し合い、本人の思いに添った生活の実現、不安の解消に努めている。	日々の関わりの中でいろいろな話を聞き、思いや意向を確認している。ミーティングで話し合い、わかったことを共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や状況を利用者や家族、担当ケアマネの情報などをもとに、職員間で話し合い共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の身体や精神的状況を把握し、意思を尊重し、その人のペースで過ごせるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にケアプランの見直し、評価を行っている。担当職員が毎日の記録からカンファレンスシートを作成、ケース検討会で話し合っている。また、本人や家族の意見や要望も取り入れている。	入居時に本人と家族に希望を聞き、それに沿ったケアプランを作成し、3か月ごとの見直しをしている。プランは具体的に書かれていて理解しやすく、評価と課題についても職員を含めて話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌や毎日の個人の記録、バイタルチェック、食事や排泄の状況等変化があればその都度話し合い、伝言表などを活用し情報の共有をしている。必要な場合はケアプラン変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ひとり一人の状況の把握や家族との関係等を理解し、寄り添うケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小中学校の訪問、祭りや行事等の見物、参加、バラ園や高塚参拝など毎年の恒例行事として行っている。障害者施設との交流ややらん会など地域との交流を支援している。今年度は感染症予防のため交流や行事が中止になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前のかかりつけ医の受診を基本としているが、家族の希望も取り入れ支援している。	入居前の主治医に継続してかかることができる。受診は家族が同行するが、行けない場合は職員が連れて行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタルチェックの変化や体調不良時は併設施設の看護師に報告、異常時は家族に連絡、医師やかかりつけ医を受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の生活状況や医療情報を共有、主治医や相談員と相談、対応ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や機会があるときに緊急時や重度化した時に対応について家族の意向を確認し、関係職員間で話し合い共有している。	入居時に、重度化した場合の対応について説明し、家族の考えを聞いている。看取りは原則として行わず、特養や病院を勧めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡体制、対応について定期的に話し合い、個別のファイルを作成し、緊急時に備えている。研修やミーティング等随時非常事態に備えての確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月併設特養と合同避難、防災訓練を行っている。年に1回消防署や地元消防団との避難訓練や、運営推進会議で市や地域自治会長や民生委員と災害時の協力について話し合っている。緊急連絡網での非常呼集訓練も行っている。	火災と地震を想定した避難訓練を毎月1回、併設特養と合同で行っている。災害時には近所の人が駆けつけてくれることになっている。今年は入居者を行う避難訓練は中止となった。備蓄は3～5日分準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の意思を尊重し、無理強いしないケアを実践している。排泄や入浴も声かけに気を付け、職員間で話し合い利用者の尊厳を守るよう心掛けている。	年長者としての人格を尊重し、言葉遣いに気をつけている。本人の意思を尊重しながら、できることを手伝ってもらったり、教えてもらったりしながら一緒に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の様子や会話の中から思いや希望を聴き、意思を尊重し理解するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースで過ごしている。食事の時間や入浴など決まっていることもあるが、自由に過ごしている。一人での時間なども尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服を選べるよう支援している。2ヶ月に1回訪問美容師が本人の意向を聴いてカットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえやカット、配膳も行っている。畑で採れた野菜や季節ごとの山菜などおいしく食べられるよう工夫している。食器拭きや片づけなどできることは自分の仕事として行っている。職員は一緒に同じ食事をしている。	食事は職員も一緒のメニューを同じテーブルで食べている。できる人には手伝ってもらい、野菜の収穫や干し柿作り、漬物などを作っている。ごはんと汁物はグループホームで作って、出来立てを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の管理のもと、バランスの取れた食事ができている。介助の必要な利用者にはさりげなく声かけを行い、できるだけ自力摂取を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後口腔ケアを行っている。月に1回歯科衛生士の口腔ケアと衛生指導を受けている。必要時はかかりつけ歯科を受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録で本人の排泄パターンをチェックし、声かけや誘導を行っている。全員トイレでの排泄を行っている。	排泄パターンで把握し、声をかけてトイレに誘導する。夜間頻尿の人は原因を探り、対応を考えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で様子を確認し、体操や散歩などで体を動かすことや、食事、ヨーグルトなど乳酸菌を摂取、水分摂取での改善、また、服薬での改善にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間は決まっているが、意思を尊重し、毎日入る利用者もいる。声かけや介助のし方は職員間で話し合い支援している。	本人の希望に合わせ、週に2~6日の入浴を行っている。拒否する人には無理強いせず、声のかけ方を変えてみたり、次の日に勧めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は一人ひとり違っている。テレビを見たり、早寝早起きの利用者もいる。昼夜逆転の利用者もいるが、自由に過ごしている。室温や寝具も個々で違っているが、安全に休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報はすぐ確認ができる場所に設置、変更があった場合はその都度情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことや趣味が楽しめるよう支援している。畑仕事、歌、ゲーム、作品づくりなど職員と一緒にやっている。毎朝の体操や散歩、外出など行っている。また、誕生日には手作りケーキで誕生会を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やお花見など意思を尊重しながら行っている。屋外でお弁当を食べたり、家族との外出も積極的に支援している。今年度は外出の機会が減ったが、施設の周囲を散歩している。	今年は感染予防のために外出の機会は減ったが、車から降りないドライブや敷地内の散歩や野外活動など、できることをやっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在2名の利用者が現金を持っている。買い物をするときは自分で支払いができるよう支援しているが、今年度は買い物外出が控えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や電話をかけたいと希望するときは自由に話しができるよう支援している。手紙やはがきには返事がかけるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自由に移動できるよう、動線に物を置かないようにしている。共用空間は皆がリラックスできるように心掛けている。季節の花を飾ったり花を植えたりしている。	明るいいリビングでは外の景色が眺められ、季節の移り変わりを知ることができる。玄関脇の広いスペースにはソファや椅子が並べられ日光浴をしながら思い思いに過ごすことのできる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファは仲の良い利用者が話ができるよう近くに座っている。席は決まっていないが自然と同じ場所に座っていることが多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や入居後に必要な物や使い慣れたものを設置することもある。家族や本人と相談しながら、好みの居場所にできるように心掛けている。転倒予防のため、動線に注意している。	本人の好みの物を飾るなどして、落ち着いた自室となっている。動線に物を置かないよう、転倒予防に留意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台や手すりや椅子、テーブルの高さは使いやすいよう設計されている。クッション等で調整もしている。トイレは車いすで対応できるように広く、使いやすいよう工夫している。		